

食品分野におけるプラスチック容器包装資源循環タスクフォース（第2回） 議事要旨

1. 日時・場所：令和7年11月19日(水)15:05~17:30
2. オンライン
3. 出席者：別紙のとおり（出席者名簿）
4. 議題：(1) 再生プラスチックの供給量・質の向上に向けて（経済産業省）
(2) 再資源化事業等高度化法について（環境省）
(3) 容器包装リサイクル法入札制度の見直しについて（環境省）
(4) 意見交換

5. 主な発言内容等：

(1) 再生プラスチックの供給量・質の向上に向けて

- 経産省から資料説明。

(2) 再資源化事業等高度化法（高度化法）について

(3) 容器包装リサイクル法（容り法）入札制度の見直しについて

- 環境省から資料説明。

(4) 意見交換

○ 再生プラの供給量・コストの見通し、価格転嫁

- 2030年代の20万トンも含めてケミカルリサイクルによる再生プラの供給量は約30万トン強程度だが、再生プラのコストはどういう状況・見通しなのか。また、CPSのWGで「2030年までに再生プラ30%利用達成」という目標があるが、現状・見通しはどうか。今後の供給の確度の高い見通しが立たないと利用計画は立てられない。需要がわかれれば、供給側の予見性が向上し投資等が進むとされているが、良質・安全で経済性のあるものが出れば、需要は出てくる。他の産業と同様、供給側が必要を見越しリスクを負って投資するのが筋。利用側として、再生プラ利用や資源循環の意義は理解するが、それは再生プラの量・質・安全・経済性の課題が十分解決できた段階で、積極的に取り組むということ。
- ヨーロッパでは280万トン規模のケミカルリサイクルプラントの建設が計画されているのに対し、日本ではその1/10規模。この差の背景や構造的な課題をどう考え整理するかが大切。
- 水素やアンモニアには国の供給コストの目標値があるが、ケミカルリサイクルによる再生プラの目標を定めていく考えはあるのか。
- バージン材と再生プラの価格差を縮めることが重要。
- 非化石エネルギーについては優先的に行うものを国が整理しているように思えるが、再生プラはどのような製品へ優先して供給するのかの考えはあるか。例えば、EU規制対応が必要な製品を優先して資源を供給する等、今後こういうロードマップで動くというのがあると、足並みを揃えて動きやすい。
- 予見可能性の向上に関し、供給と需要は車の両輪。
- 供給側へのインセンティブとして政府支援が設けられるが、需要創出には最初に再生プラを利用する者にメリットを与えるなど需要側へのインセンティブを設ける必要もある。

- 資源有効利用促進法は、利用目標作成・報告義務が一定規模以上の企業にしかかからないため、業界内でイコールルッティングではなくなる。義務のかからない企業の低価格商品に消費者需要が流れるのを防ぐため、義務がかかる企業は価格転嫁したくても基本的にできない。
 - リサイクルは一般に中古品というイメージで捉えられ、消費者には価格が安くなるというイメージがあるが、再生プラは真逆であり、国・社会全体で支援が必要。
 - 再生プラの需要側、供給側を車の両輪と例えがあったが、加えて消費者の意識変更も必要ではないか。
- 海外に依存しない自律的な再生プラ供給
- 再生プラの調達を海外に依存すれば資源の経済安全保障上の懸念がある。国内の供給能力を確保するために、海外からの再生プラ輸入をどうコントロールしていくべきか。
 - 再生プラの原料となる原料プラが海外流出しない仕組みや、国内でのリサイクルを最大化することが必要。
- 高度化法の活用
- 処理事業者も参画する分別の高度化の仕組みを作るために高度化法を非常に前向きにとらえている。プラスチック新法で自治体認定などがあるが、高度化法の認定制度との違いや活用法などの情報をわかりやすく提供して欲しい。
- 容り法入札制度の見直し
- 現状の容り法入札制度の下では、油化での登録事業者はおらず、モノマー化は入札枠がないため循環型ケミカルリサイクルが動いていない。再生プラを作るという視点で制度見直しを進めてもらいたい。
 - 委託単価が値上がり傾向にある中で、今回の見直しによって委託単価はどう変わっていく見通しなのか。今回の見直しの内容を適切なタイミングで食品業界や関係者にとってわかりやすく説明して欲しい。
 - 安定枠を廃止し落札可能量の70%を材料リサイクル優先枠として競争環境を確保することについて、処理能力が逼迫している現状では入札の札が全て埋まらずに、その結果指名競争入札となり落札価格が大きく上昇すると考えられる。そうすると上限価格が非常に重要な意味をもつことになるので厳格な上限価格を改めることについて、落札価格が大幅に上昇しないよう、制度の運用を慎重に行ってもらいたい。
 - 環境省には再商品化費用の内訳が見えるようにして欲しい。
 - 容り制度見直しによって、プラの回収はどのくらい増えるのか示してもらいたい。
- 今後のスケジュール
- 「今後の取組方向」の決定は、価格も含め供給力が確実になるまでは難しいのではないか。

(以上)